

私の《世界一》の映画 ——映画体験とは何か

“NUFS映画祭2019年”プレミアムシネマトークシリーズの第一弾では、映画を作る側・観る側双方の専門家が集い、「世界一」の一本について語り合います。世界中数多ある映画の中からシンポジストたちに選ばれた一本は、映画好きの方にはもちろん、普段あまり映画を観ない方にとっても、きっと新たな出会いを提供します。是非、“NUFS映画祭”の記念すべき第1回目にお越しください！

進行

亀山 郁夫

名古屋外国語大学学長。専門はロシア文学。1949年生まれ。東京外国語大学卒業、東京大学大学院博士課程中退。著書『碟のロシア』、『謎とき「悪霊」』、『ショスタコフヴィチ』、訳書ドストエフスキー『カラマゾフの兄弟』他。

シンポジスト

小川 真理子

ニューヨーク市立大学大学院センター (The Graduate School and University Center, CUNY) にて、フィルム・スタディーズを専攻、映画史や映像理論を学ぶ (Master of Arts, Liberal Studies)。その後、ニューヨークやノルマンディー等でアーティストの記録映像を制作。現在は非常勤講師として、名古屋外国語大学、愛知淑徳大学、名古屋大学等で映画論や映像制作の授業を担当。

柿沼 岳志

名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科専任講師。日本大学芸術学部映画学科、京都造形芸術大学大学院卒業。映像制作会社勤務を経て、現職に。監督作に『プラネタリウムと冬の月』(ショートストーリーなごや映像化事業)、プロデュース作に『唇はどこ?』(長崎俊一監督作品/NUAS映画プロジェクト) など。

ヤニック・ドゥプラド

フランスのリール第三大学にて現代文学と言語学を専攻する。日本では、アリアンス・フランセーズで教鞭を取った後、現在は名古屋外国語大学フランス語学科准教授。フレデリック・ワイズマンのドキュメンタリーに啓発され、フランス映画とドキュメンタリー映画の研究を始める。本学では「映画論」、名古屋大学で「フランス映画」講座を担当している。

日時 **2019年6月26日** 水
16:40~18:20

会場 **名古屋外国語大学 K508教室**

開催 **名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター主催**

対象 **どなたでも参加できます**



参加無料
要申込み
[先着順]

■ 申込み方法

当日参加も可能ですが、準備の都合がありますので、事前のお申込みをお願いいたします。右記のQRコードを携帯電話やスマートフォンで読み込んで頂くか、下記URLをパソコン等で直接入力して、申込みのフォームに必要事項を入力、送信してください。

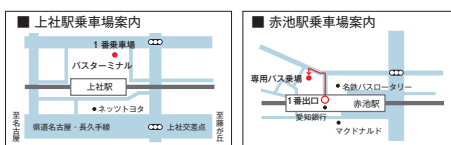
<https://req.qubo.jp/wlac/form/20190626>



■ 本学へのアクセスについて ■

当日、駐車場はありませんので公共交通機関または上社駅、赤池駅からの専用バス(無料)をご利用ください。

専用バスにご乗車の際は、イベントに参加する旨を運転手にお伝えください。



問合せ先 **名古屋外国語大学**
ワールドリベラルアーツセンター | Tel: 0561-75-2164 (直通) | mail: wlac_gg@nufs.ac.jp



本イベントにおける写真撮影や録音はご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。会場では腕章を付けたカメラマンが記録用の写真撮影を行っています。本学ウェブサイトやその他の刊行物に、写真が掲載されることがありますのでご了承ください。